

# ネイパルに泊まろう part2

## 1, 趣 旨

ネイパルに宿泊し、野外活動や創作活動など、体験活動をとおり、異年齢の交流を図る。

## 2, 期 日

平成26年12月25日（木）～26日（金）1泊2日

## 3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

## 4, 参加対象

小学校2年生～中学生

## 5, 参加実績

□参加者 58名（以下内訳）

2年	14		
3年	13		
4年	7	男子	13
5年	18	女子	45
6年	6		58

□ボランティア 8名（以下内訳）

（内訳：教育大函館校、函館大学、札幌国際大学、一般）

## 6, プログラム内容

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1 日 目	受付 12:30～ 開会式 13:00～	開 会 式	仲良し タイム	手作りランプ作り		夕 食	誘惑のネイパル森！ サンタクロース を探せ！	入浴・自由時間		就 寝 準 備	就 寝
2 日 目	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
	起 床	洗 顔 掃 除	朝 食	荷 物 移 動 部 屋 点 検	ケーキ作り		ア ン ケ ー ト 閉 会 式	閉 会 式 12:30～ 解 散 12:40			

## 7, 活動の様子

この事業は、渡島・檜山管内の小学2年生～中学生を対象に、ネイパル森に宿泊し、野外活動や創作活動など、体験活動を通じて異年齢の交流を図ることをねらいとして実施。

開会式では、阿部所長から「ぜひ、ケーキ作りや手作りランプづくりなどを楽しんでください。体験活動をとおして、新しい友だちをつくり、交流を深めてください。」と挨拶。その後は、「なかよしタイム」。全員で軽く体を動かしながら、緊張をほぐしていった。全員で「じゃんけん」をしたり、班内で自己紹介をしたりしながら、友だちとの距離を縮めていた。最後に、「探してこよう」のミッションのもと、外の木の葉を班毎に探して歩いた。続いて、「手作りランプづくり」を行った。組み立てるパーツ毎に説明をうけながら、一人ひとり思い思いのランプを作っていた。中には、上級生が下級生の作業を手伝う場面も見られた。カッターを使う場面では、どの参加者も慎重に作業を進めていた。最後には、全員がランプをつくり上げることができた。夕食後は、「誘惑のネイパル森～サンタクロースを探せ～」を行った。トランプを5セット使用し、施設内「大じじぬきゲーム」を参加者全員で行った。「じじ」をサンタクロースに見立てて、班毎に渡されたカードで、どれが「じじ」をあらかじめ予想して出発。班の中で役割を分担し、一緒になって館内を歩いた。じじ抜きで盛り上がった後は、キャンドルの集いを行った。点されたキャンドルの下、今日一日を静かに振り返った。



2日目は、「ケーキ作り」を行った。地元の洋菓子工房から天野洋介氏を迎えて、ケーキ作りを行った。ケーキが作られ

ていく行程を、一つ一つどの参加者も真剣に見ていた。段階をおって、綺麗にできあがっていくケーキをどの参加者も目を見張っていた。次に、グループ毎にケーキ作りを行った。慣れない手つきながらもどの参加者も真剣に作っていった。最後に、ケーキを分けて試食。「おいしい」とどの参加者も顔をほころばせていた。

最後に、活動の振り返りの交流では、「めったにできない体験ができて楽しかった。」「2日間でこんなに友だちができて楽しかったのははじめて。」「何も知らない人たちと同じグループになったけど、すぐに仲良くなれたことが一番楽しかった。」と話すなど、名残惜しいという声とともに、ネイパル森で出会った友だちとの2日間の体験活動について、達成感や充実感を確かめ合っていた。

## 9、参加者の声

（以下アンケートより抜粋）

- ・ネイパル森では、たくさん友だちができてたくさん交流できたからネイパルに来て良かった。
- ・夜ランプをつけたとき、とても綺麗だった。
- ・みんなでケーキを作って、食べたことが思い出に残っています。
- ・グループのみんなと、お話をしながら夕食を食べたことが楽しかったです。



## 10、事業の分析と考察

今回の事業の趣旨は「ネイパルに宿泊し、野外活動や創作活動など、体験活動をおし、異年齢の交流を図る。」であった。本事業は、大変人気がある事業であるため、1回目を12月13日～14日に実施。今回は2回目となる。前回と同様、班構成は男女別縦割りとし、仲間と寝食を共にしながら異年齢の交流を図った。前回よりも、初めて宿泊する参加者が多かった。アンケートからは、「お部屋の中でトランプして遊んだことが思い出に残っています」、「みんなで遊んだり、食べたり、寝たりして楽しかったです。」という声が上がっている。また、事業の中で友だちができたかどうかについて聞いたところ、84%を超える参加者が達成できたと回答していた。このことから、異年齢との交流や、宿泊体験を多くの人に体験できる機会を提供できた。

## 11、成果と課題

○成果

- ・異年齢交流を図るために、生活と学習のグループを一緒にしたところ、アンケートからも、ねらいが達成されていることが分かった。
- ・2回開催したことで、希望するより多くの参加者に、ネイパル森での宿泊体験活動を提供することができた。

▼課題

- ・今回、車椅子での参加のお子さんがいた。職員が一人つき、マンツーマンで対応した。結果、大きなトラブルなく終えたが、今回の対応を整理し、次回に向けて活かしていきたい。

